

白楽荘では
職員の知恵とチームワークで
ご利用者の生活に楽しさを提供

三月以降、新型コロナウイルス感染症で、ご家族の面会休止、ボランティア活動の休止など、特別養護老人ホーム白楽荘のご利用者にとって、生活の楽しみが大きく減ってしまいました。日々の生活の中で、職員として通常の日常生活支援を行いながら、さらにご利用者の楽しみになることを提供できる範囲は限られています。それでも、各フロアでは、職員が知恵を出し合い、準備などの時間をチームワークの中で生み出しながら、ご利用者の生活に少しでも刺激になるように、日々頑張っています。

アイディアいっぱいのおフロア行事

通常は、施設四階の広い多目的フロアで、ご家族も参加して行っている「ホーム喫茶」ですが、三月と四月はフロア単位で実施しました。特別感を演出した場所で、スイーツや飲み物を頂き、記念写真を撮るといった演出をフロアで工夫すると……。



四月二十六日(日)は、「端午の節句」をテーマに、各フロアでホーム喫茶を行いました。手作りの鯉のぼりを食堂に飾ったり、新聞紙や模造紙で作った兜をかぶって記念撮影をしました。ご利用者のみなさんは、童心に返ったような生き生きとした笑顔を職員に見せてくださいました。この日も、お好みのスイーツを選んで召し上がっていただきました。五月のフロア行事も各フロア職員のアイ

四月二十六日(日)は、「端午の節句」をテーマに、各フロアでホーム喫茶を行いました。手作りの鯉のぼりを食堂に飾ったり、新聞紙や模造紙で作った兜をかぶって記念撮影をしました。ご利用者のみなさんは、童心に返ったような生き生きとした笑顔を職員に見せてくださいました。この日も、お好みのスイーツを選んで召し上がっていただきました。五月のフロア行事も各フロア職員のアイ



で作りました。美味しすぎて、お代わりをする方もいらっしやいました。七階は「町のドーナツ&プリン屋

ご家族にご利用者の様子を伝える工夫

ご利用者を新型コロナウイルスから守る！そのため、施設内にウイルスが持ち込まれるリスクをできる限り減らしていかねばなりません。ご家族の面会休止は、ご利用者だけでなく、ご家族にとってもつらい決定でした。

面会制限中のご家族に施設での様子をお伝えするために、白楽荘で毎月出している会報

『ほほえみ』に番外編を足して、各フロアの様子を伝えましょう。ケアワーカー、ナース、リハビリ職、管理栄養士、生活相談員と多職種の職員で構成する「多職種会議」での提案を受け、五月号は、通常版プラス番外編で発行しました。施設での様子がより伝わりやすいように写真を多く掲載したところ、ご家族からは「元気な様子が見られて安心しました」「嬉しい」などの声を頂くことができました。また、電話でご家族と会話できる方は、日時等を調整して、電話でお話していただいたり、生活相談員やワーカーがご利用者の様子を電話でお伝えしたりなどのフォローもしています。

六月四日からは、面会制限を緩和しました。予約制で、一日の人数制限、面会時間の制限、面会場所の限定を行い、密を避けての面会を実施しています。ご家族には検温や手指消毒、マスク・フェイスシールド着用などのご協力を頂いています。



ディア満載の企画となりました。特に、五階南側には広めのベランダがあるため、「日光浴をしながらのティータイム」を実施。心地よい風と暖かい日差しの下で、モンブランやプリン、クレープなどのスイーツを召し上がっていただき、普段とは全く違うオープンカフェ気分を味わっていただきました。六階はオリジナルパフェづくり。お好み

のアイスクリームやトッピングを選び、世界に一つだけのオリジナルパフェをみんな